

部落への忌避意識から

差別事件報告集会

プライム事件 和歌山でも

20件もの不正取得が！

12月7日、ダイワロイネットホテルで「2012年度差別事件報告集会」がひらかれ、解放同盟をはじめ各層から約300人が参加した。

はじめに、田上武・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長、中澤敏浩・県連執行委員長からあいさつがあった。つづいて、基調提案では、藤本哲史・書記長から、プ

ライム事件における身元調査事件や土地差別調査事件など、差別の実態が報告された。また、本年が全国水平社創立90周年という記念すべき年であり、さらには和歌山県水平社創立90周年の年であることから、



あいさつする田上武・会長



講演する 小野寺崎玉県連書記長

基調提案する 藤本書記長

解放運動をさらにすすめることを提案した。記念講演では、小野寺一

規・埼玉県連書記長から11年に発覚した「プライム事件」についての経過、行政職員や通信会社など個人情報の出所、調査方法や取引のルート、個人情報不正取得における被害などが詳細に説明された。

女性の 인권について

(DV・児童虐待)

12月16日、同和企業センターで県連女性部学習会をおこない、15支部48人が参加した。

講師に永井真理子・和歌山県子ども・女性・障害者相談センターを代表して「女性の人権(DV・児童虐待)について学習をした。

相談センターは和歌山市毛見にあり、子どもの相談(扶養相談、非行、不登校など)や虐待による一時保護、女性の相談、障害に関する相談などをおこなっているが、参加者のほとんどが存在を知らなかった。

相談件数は毎年増加しており、そのうち来所相談ではDVに関する内容が3分の2以上あり、現在、16歳から82歳の女性を保護している。DV被害を受けると恐怖や不安、悪いのは自分だと思ってしまう。そして、経済的な問題や子どものこと、報復への恐怖でDVから逃れられない。これらは情報不足が原因であり、相談場所を知らないことが大きな原因であると語られた。

会場から、相談所に入所した人がどれぐらい自立して戻っているのかとの質問に、親族がいれば実家に戻ることもあるが、連れ合いの元に戻るのが半数で自立しているのは3割程度であると述べられた。

最後に DV相談を受けたら「あなたは悪くない」と伝え、ひとりで抱えこまず専門機関に相談することをアドバイスされた。

和歌山県女性相談所
TEL 073(445)0793

連載 (15)

「吾々は市政といかに闘うか」 —オール・ロマンス差別糾弾要項—

下水道も同じである。市の下水計画は、戦争によってとんざしているという。高山市政は昭和二十五年、二千万円の予算をもって下水道の建設計画を復活させた。この話もまた吉田が一枚かんでるといわれる。吉富旅館の会談でこの話に

くが、これらの勤労市民にたいする下水工事が高山市長の手でなされたという話

富旅館の会談でこの話にえたといわれているが、昭和二十五年の計画では宮川町から祇園にかけてのかなり地帯が、工事の施工地となっていた。まさに文都法の目的にかなうわけで外国人か、でなければかんらくか、いずれかのために、市の行政はすべて集中せられていたのである。

京都市内には五条通・御池通・堀川通その他の疎開道路が縦横に切り開かれていたが、これらの強制立退きを余儀なくされ、自分の土地自分の家を失った市民にたいしては、ようやく敗戦後六年たつてはじめて、疎開地の買収計画がたつたという話である。実に市民を馬鹿にしている。

下水道の場合も上水道と同じ条件にある。本管からの引込み管は私設下水道として、個人の負担になる。大金持ならとにかく長屋の二十軒も三十軒もならんで自然にできあがった私道を、私設水道だといっているので、おつておかれるから、溝と道との区別のつかない、汚水の井戸のみこむ街が

で、地区改善だの不良住宅改良だのの事業がおこなわれ、道路をとおし、家をたてかえるために、住んでいる家がずいぶん分こわされたことがある。

最後に DV相談を受けたら「あなたは悪くない」と伝え、ひとりで抱えこまず専門機関に相談することをアドバイスされた。

しかしそれは戦争がたけなわになって、とてもそういう事業をやる余裕がないというので、計画倒れになり、家はこわされほうだいという結果になってしまった。(次号につづく)

